

令和4年度

幼稚園だより 6月号



文京区立千駄木幼稚園

体を動かすことを楽しむ幼児の育成

副園長 西郡 千晴

梅雨を迎える前の心地よい季節、幼稚園の園庭は賑やかに子どもたちが元気に走り回っています。千駄木幼稚園の園庭は平らな場所もありますが、大きな木々の根っこがポッコリと出ている場所が多くあります。着任当初、園庭環境に不慣れな私はよく躓いてヒヤリとすることがありました。しかしながら子どもたちが木の根っこに躓く怪我が少ないことが不思議でした。木の根っこ付近に注目して子どもたちの遊ぶ様子を見てみると、鬼ごっこで木と木の間をすり抜ける時、絶妙に減速して通り過ぎたりジャンプで跳び越えたりしていました。自分の注意力不足を反省するとともに、子どもたちの身のこなしの見事さに感心しました。もしかすると、怪我にはつながらない程度の小さなヒヤリ体験を繰り返しながら、知らない間に身のこなし方を体で覚えているのかもしれない。どの子も同じように経験を積み重ねられるとよいのですが、幼児の好む遊びに任せていると経験に偏りが出てしまいます。

どの幼児も教育目標の一つである「心も体をたくましい子ども」に育てて欲しいという願いから、今年度は教員の園内研究テーマを「体を動かすことを楽しむ幼児の育成」としました。過去の園内研究で作成した園内の遊びマップや運動遊び計画を活用し、教員の皆で知恵を出し合いながら園内の環境を最大限に生かして、体を動かすことを楽しめるような仕掛けをたくさん考えていこうとするものです。体育の授業のようにみんなで取り組む活動だけではなく、日々の生活や遊びの中で自然に身に付くものが積み重なり、たくましい心と体につながるものであるだろうと考えています。ご家庭でもたくましい体づくりにつながるような工夫を考えてみてください。楽しく続けられるものが見つかったらぜひ情報をいただけると嬉しいです。幼稚園と家庭とで協力し合い、お子さんたちの豊かな成長につなげていきましょう。



鉄棒横の大きな木の根っこ



だるまさんが転んだ

(このような動きが経験できます)
合図を聞いて動く、止まる、向きを変える



ドンじゃんけん

(このような動きが経験できます)
一本橋をバランスで歩く、止まる、ジャンケンの勝敗が分かる、勝ったら進む、負けたら向きを素早く変えて陣地に戻る